



平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	神仏と民俗芸能を中心とした歴史的文化的地域資源を継承・活用した山村地域活性化事業
対象地域	長野県飯田市南信濃地区・上村地区(遠山郷)
活動概要	<p>長野県飯田市東南端に位置する遠山郷は、南アルプス山麓の山間地域である。戦後の高度経済成長期以降、地域の主要産業であった林業の不況が多くの人流出を促し、現在の人口は最盛期の半以下となり、高齢化も顕著である。平成18年には飯田市に吸収合併され、自力による地域づくりは一層困難となり、その状況をどのように克服し、打破するかが最大の地域課題となっている。しかし、この地域には幕末から明治期にかけて、飯田と遠州方面を結ぶ秋葉道が通っていたことから活性化し、人・物・情報の交流とそれらの定着もみられ、歴史文化資源を形成してきた。そのようななか、以前から遠山郷で地理学的研究をすすめてきた愛知大学教授の藤田佳久は、大学院生の高木秀和とともに、地域の人々の協力を得ながら、庶民信仰の神仏を祀った石碑や祠がこの地域に集中的に分布していることに注目し、その研究をすすめる一方、これらの神仏を改めて歴史文化資源として浮かび上がらせ、新たに現代の「癒しの空間」として整備を進めるために、遠山郷に「神様王国」づくりを提案してきた。地元側もその案に少しずつ理解を示し、平成20年に地元の組織を束ね「遠山郷神様王国建設実行委員会」を結成し、一部の試みに着手した。また、この秋葉道沿いには自然の神々との交流により集落の安泰を願う、中世末にまでその起源が遡るとされる霜月祭が各集落に継承されており、人口減少と高齢化のなかでその担い手に苦慮している現状がある。前述の「神様王国」とこの霜月祭とは強いつながりがみられ、遠山郷の歴史的文化的地域資源としてこれらを継承する条件を調査し、それらを活用することで、秋葉道のネットワークを軸線として点状の地域資源を線状へ展開できる。その際、かつての秋葉道を再生、活用することにより、ウォーキング・コースの設定も可能になり、地域内はもちろん、地域外からも多くの人々を誘導することができる。この秋葉道については、「愉快的仲間たち」が一部復元を試みている。この事業を具体化、実現することにより、地元地域住民には先人たちの環境への対応の仕方や知恵を学び、地域への理解や愛着心を養成するとともに、旧来の飯田市民をはじめ、とりわけ東海地方の都市住民がこの「癒しの空間」へ来訪することにより彼らのフレッシュ効果を促し、それとともに遠山郷側の受け入れ体制を確立することにより、遠山郷の歴史的文化的評価を高め、さらに経済的収入の増加を図ることによって、遠山郷の多様な活性化を実現し、新たなコミュニティの創成を目指す。</p>
今年度の主な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1.歴史的文化的地域資源の再生・活用のための基礎調査 「神様王国」づくりのための遠山郷における神仏調査、また「霜月祭」を継承するための調査を行い、一部途絶えた霜月祭の復元調査も行う。 2.人材育成 「神様王国」については神仏のガイド、「霜月祭」についてもその担い手養成も含め、ガイドができる人材を養成し、相互の交流も図り、遠山郷全体の認識が可能な人材を養成する。それにより、地域外の人々との人的交流を活性化させる。 3.商品開発 以上の事業を具体化するなかで、周年化可能な「神様王国」への来訪者と、12月の「霜月祭」への来訪者を対象にした独自の商品開発をすすめる。 4.ウォーキング・コースの設定と改修 遠山郷内の秋葉道の復元によるウォーキング・コースを温泉施設「かぐらの湯」や木沢、上町を起点として設定するとともに、「神様王国」めぐりのためのウォーキング・コースも設定し、ウォーキングに不十分な部分については改修を行う。また、休憩所やトイレの設置も工夫する。 5.体験型観光への試み 以上のような事業の展開のなかで、遠山郷に関心をもった来訪者のための体験型・滞在型観光をすすめるための講座や塾の開設を試みる。 6.広報活動の促進 以上のような事業の広報のために、ホームページを作成するほか、リーフレット、ハンドブックを作成し、飯田市民用広報誌、JR飯田線、観光業者、各メディアへの情報提供を図る。

活動結果	<p>合併後の遠山郷の中心であった旧南信濃村は、多くの歴史的文化遺産の活用することなく、地元住民の意識の中に淋しさが漂った。そのような状況下で「神様王国」づくり計画は合併により周辺化した遠山郷に新たな力を与える活性化計画として受け入れられ、大きな地域問題解決への切り口になったと言える。地域の中に多くが埋もれつつあった地域の歴史的な文化資源を活用し、地元の人々が神様ごとに設置された説明板を見て、改めて村の先人たちの苦労や知恵、歴史を知り、郷土に目覚め、郷土に自信をもちはじめたことは、もっとも大きなコミュニティ形成の基礎的部分を確立したと言えるし、この計画の最大の効果であったといえる。よって、多くの組織が次第に協働することによって、説明板の自分たちの手による製作やマップづくり、ガイドの自発的な活動、ポスター、チラシづくり、新たな料理の工夫などが進められ、多くの組織の参加も可能となった。</p>
当初予想していなかった効果	<p>立ち上げに際して、まず神様王国運営委員会のメンバーが熱心に参加し盛り上げたこと。従来、必ずしも自分たちで企画し実行する環境になかったことからすれば、自力で取り組もうとする姿勢は大きな成果になるといえる。地元の新聞社やテレビ局が積極的に取材し、関心を払ってくれたこと。そして記事や番組を作ってくれたこと。地元の住民の方々が説明板によって神様の内容を知り、あらためて神々を大切にする気持ちが芽生え、あわせて遠山郷の先人たちの知恵や工夫を理解し、遠山郷に誇りを持つようになってきたこと。神様王国運営委員会を通して、新たに加わった愉快的仲間たちとの連携ができるようになったこと。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>○神様王国運営委員会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○神様王国巡りの様子</p> </div> </div>
応募団体名	遠山郷神様王国運営委員会
リンク	
部局／担当者名	藤田 佳久
連絡先	0532-47-4111
推薦市町村名	長野県飯田市